

国家を揺るがせた20世紀最大のスパイ事件「ゾルゲ事件」
 警察、司法を経て天皇上奏、国民への開示に至り、
 司法行政のなかで「ゾルゲ事件」として生成してゆく、
 そのプロセスを新たに解明するための、未曾有の史料群
 ついに刊行！



◀「ゾルゲ事件」報告の原型となった「国際共産党対日諜報機関検挙申報」表紙。
 ▼下は「尾崎秀実供述要旨（其ノ三）客観情勢ニ対スル認識所見」冒頭部分。今回発見の新史料のひとつ。

ゾルゲ事件

国立国会図書館所蔵 太田耐造関係文書

推薦

伊藤隆
 荻野富士夫

史料集成

[編集復刻版]

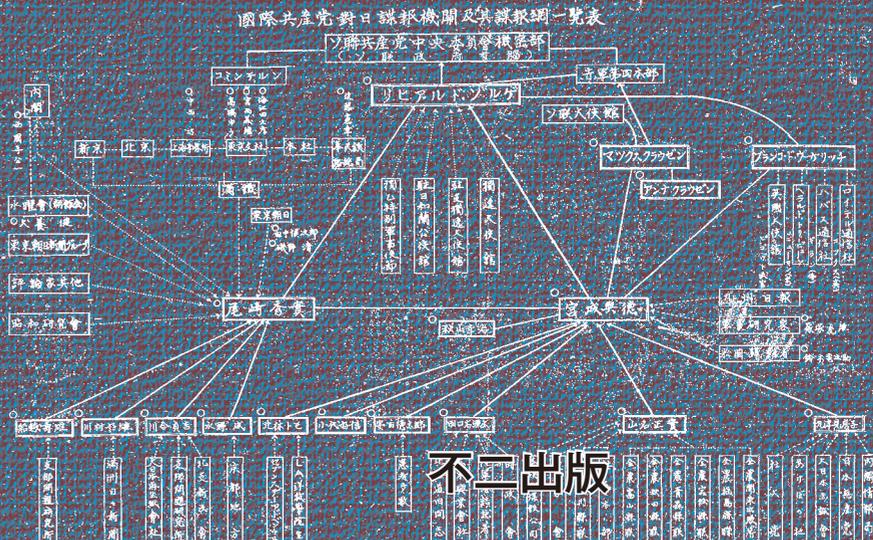
加藤哲郎 編集・解説

全4回配本・全10巻

揃定価 揃本体 250,000円+税
 体裁 B5判・上製・総約3600頁



▲最重要文書ともいえる、天皇への上奏文（所謂国際諜報団事件に関する上奏文案）第8巻収録。末尾にクリップで留められていたゾルゲの写真。
 ▼満洲国司法部赴任直後（1942年10月）の太田耐造（『太田耐造追想録』より）。



不二出版

ゾルゲ事件研究における21世紀の新たなステージを切りひらく、権力最奥での捜査記録群！

編集にあたって

加藤哲郎

本史料集成は、二〇一七年に国立国会図書館憲政資料室で公開された「太田耐造関係文書」のなかの、ゾルゲ事件に直接・間接に関わる、オリジナルな第一次史料をまとめたものである。

編集にあたっては、憲政資料室の「太田耐造関係文書目録」(二〇一七年一月)をもとに、「司法書記官、刑事局第六課長(昭和一四年一月〜一七年七月)」時代中の「3・4ゾルゲ事件」と分類された文書(請求番号1701215)を中心に、同事件と多少とも関連する外国諜報・海外共産主義情報、日本共産党再建運動、企画院事件、満洲合作社事件、中共諜報団事件などの執務・取調・裁判関係史料をも「関連史料」「周辺史料」として収録した。

「太田耐造関係文書」の全体は、神兵隊事件など右翼・国家主義史料や治安維持法・言論統制検閲史料などを含む膨大なものであるが、ゾルゲ事件に関するものは、これまで研究上の第一次史料とされてきた『現代史資料 ゾルゲ事件』全四巻(みすず書房、一九六四〜七一年)に未収録の新史料を多数含む、当時の権力最奥での捜査記録である。『現代史資料』は、もともと戦後に警察庁が収集した旧内務省活字史料・裁判史料の集大成であったが、「太田耐造文書」は、手書きやタイプ印刷の、文字通りの第一次史料である。

特筆すべき新史料は、「昭和天皇へのゾルゲ事件上奏文」である。『昭和天皇実録 第八』(東京書籍、二〇一六年)の昭和一七(一九四二)年五月一三日に、「午前一一時三〇分、御学問所において司法大臣岩村通世に謁を賜い、尾崎秀実及びリヒャルト・ゾルゲ等の機密漏洩事件告発につき奏上を受けられる。なお一六日、司法省はゾルゲ事件を国際諜報団事件として発表する」とあるが、その「我が国情に関する秘密事項」の具体的内容が、「太田耐造関係文書」に上奏文案として綴じ込まれていた。それを五月一七日の各紙が報じた「司法省発表」と比較すると、当時の国家権力内部で、ゾルゲ事件を小さく扱い、戦時体制への打撃を最小限にとどめようとしたことがわかる。そのための新聞発表文を内務省・外務省・大審院とも調整して逐語的に検閲し、「新聞記事掲載要項」で報道統制した経緯も明らかにする。

事件全体の総括として、『現代史資料 ゾルゲ事件(一)』冒頭(及び警察庁警備部『外事警察資料』第三巻第五号、一九五七年)に収録された内務省警保局保安課「ゾルゲを中心とする国際諜報団事件」(一九五七年のものでは「ゾルゲを中心とする」)のもとになった詳しい捜査総括記録も、留岡幸男警視総監の司法大臣宛「国際共産党対日諜報機関檢舉申報」として発見された。尾崎秀実・宮城与徳・西園寺公一・犬養健・田口右源太・水野成・中西功ら日本人被告・関係者の新史料・証言も、初めて発表される。太田耐造が一九四二年九月に満洲国司法部に転任するため、その後の裁判史料は少ないが、思想検事としての太田の経験が、中共諜報団事件、満洲合作社事件、満鉄調査部事件などにも影を落としたことが読みとれる。

本史料集成における「太田耐造文書」の公開は、ロシアのM・アレクセーエフらによるゾルゲが上海・東京からモスクワに送付した秘密電文・書簡類の発掘・公刊と共に、二一世紀のゾルゲ事件研究を新たな段階に導くことになるであろう。(かとう・てつろう 一橋大学名誉教授)

本集成は、太田耐造関係文書のうち、ゾルゲ事件を理解するために必要と考えられる間接的な文書類を、「ゾルゲ事件周辺史料」として収録した。左「『コミンテルン』ト治安維持法トノ関係(以下略)」、右「満洲ニ於ケル共産運動ノ概況」(どちらも第9巻収録)。



ゾルゲ事件研究の新たな発見を期待

伊藤 隆

ゾルゲ事件の史料といえ、みずす書房の『現代史資料ゾルゲ事件』全四巻（戦後警察庁が記録を部外秘として刊行したものが原本）以外に殆ど見られなかった。私が聞き取りを行ったのも、宮下弘から、中村智子さんを行ったもの（『特高の回想 ある時代の証言』田畑書店、一九七八年）や村田五郎・永野若松等、警保局の職にあった人びとからのもので（『海鳴り 内務官僚村田五郎と昭和の群像』上、芦書房、二〇一一年）、基本的に警察関係のみであった。今回刊行の『ゾルゲ事件史料集成』はそれとは異なり、思想検事であった太田旧蔵のもの、司法・検察関係で、その意味でゾルゲ事件研究に新たな局面を与え、大きな貢献をするものと期待される。司法大臣の上奏も新たに明らかになっている。その上で、私は以前からこの事件記録に軍人の名が出てこないことを不審に思い（ゾルゲも尾崎秀実も陸軍軍人とのつき合いがあった）石堂清倫氏に話しかけ、彼が調べた結果、二、三の軍人を調べることができたという話があったが、その後同氏が亡くなられて、詳しく伺う機会がなかった。警察・司法と共に、憲兵もこの事件に拘わったはずだと思っているが、今にその関係の史料が発見されないのはなんと残念である。太田耐造は軍人とも強い結びつきがあったという。今回の司法関係の史料の延長線上に新しい発見があることも期待したい。

（いとう・たかし 東京大学名誉教授）

ゾルゲ事件はどのように裁かれていったのか

— 実証的な考察が可能に —

荻野富士夫

司法省刑事局第六課長としてアジア太平洋戦争開戦前後の思想検察を指揮し、治安維持法の大「改正」を主導した太田耐造は、平田勲・池田克につぐ、思想司法の中核的な存在である。それゆえに太田のもとに報告され、整理保管された史料群は、治安維持法運用の拡張過程やゾルゲ事件について、新たな実証的な分析を可能にする。

ゾルゲ事件に焦点を絞って編集された本史料集成は、主に『現代史資料ゾルゲ事

件』全四巻によるこれまでのゾルゲ事件像、およびゾルゲ像・尾崎秀実像を修正し、さらなる豊かな造形を導くのに十分な質と量に満ちている。本史料集成の特徴は、警察・検察による捜査・取調過程で作成された文書類が中心となっており、警察・検察・予審・公判関係に重点をおいた『現代史資料』版と相互補充することにより、ゾルゲ事件がどのように思想犯罪・防諜犯罪として裁かれていったのか、具体的に実証的に考察する史料的环境がほぼ整ったといえる。

いくつか注目すべきものをみてみよう。一九四一年七月二五日付で大審院検事の発した「外課被疑者検挙準備ニ関スル件」は、大審院検事局・司法省刑事局・憲兵司令部・内務省警保局の協議を経た通牒で、「近ク外国ノ諜報謀略ニ暗躍策動セル疑アル者」に対する全国一斉検挙を準備するよう指示し、ゾルゲ事件始動の合図となった。四二年六月の警視庁「国際共産党対日諜報機関検挙申報」中の書込みはおそらく太田のもので、四〇年末、警視庁特高部の取締が「合法面ニ於ケル共産主義運動」に偏していることとみて、東京地検思想部が潜行的な「海外ヨリノ運動」に注意を向けるよう指示したとする。

検挙直後の一九四一年一月一七日の吉河光貞検事による「尾崎秀実ノ供述要旨」は、とりわけ興味深い。内偵捜査から導いた尾崎像を、共産主義信奉者ながら「表面ハ「リベラリスト」又ハ「ファシスト」タルカ如キ態度ヲ偽装シ所謂ニ重生活ヲ営ミ来レリ」とするとともに、検挙により「赤色スパイ」トシテ極刑ヲ免レサルハ既ニ覚悟シ居ルトコロナリト放言シ居ル」とするのである。こうした当初の尾崎像およびゾルゲ像が、特高や検察、予審を通してどのように推移していったのか、各段階の取調書の比較によって明らかにし得るようになった。また、特高や思想検察、予審判事の聴取のポイントの差異も見えてくる。これまでほぼ未見だった水野成や田口右源太に対する警視庁特高第一課の取調書は、ゾルゲ事件の奥行をさらに深めてくれるだろう。事件公表直前になされた昭和天皇への岩村通世法相の「上奏文」も貴重である。昭和天皇の治安問題への関心の高さだけでなく、おそらくはその関与の大きさも再認識させる。

「ゾルゲ事件周辺史料」は、治安情勢全般のなかでゾルゲ事件の占める位置を考えるうえで周到な目配りがなされている。と同時に、満鉄調査部事件、合作社事件、中国共産党事件など、個々の史料ごとに新たな知見をも提示する。太田自身がその対象となる戦後の公職追放における「G項該当者」の司法関係者一覧や審査基準の文書も、今後の研究に有用である。（おぎの・ふじお 小樽商科大学名誉教授）

思想検事・太田旧蔵の司法・検察史料という意味で、ゾルゲ事件研究に新たな局面を与える—— 伊藤隆

これまでのゾルゲ事件像を修正し、さらなる豊かな造形を導くのに十分な質と量に満ちている—— 荻野富士夫

I 収録内容一覧

I ゾルゲ事件史料 1（「外諜事件」ファイルほか）

ゾルゲ事件史料1・2には、「ゾルゲ」と記された包紙や封筒に入った史料を中心に、関連する文書を加えた。ゾルゲ事件史料1には「外諜事件」ファイルの文書を取録。

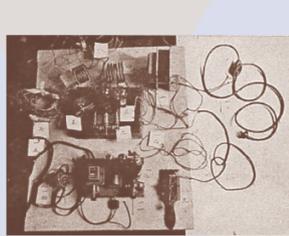
第1回記本（2019年7月刊行予定）		
第1巻	「二、共産主義運動ノ状況」	● —
	外諜被疑者検挙準備ニ関スル件 大審院検事局日記秘三四二九号	●昭和16年7月25日
	外諜被疑者検挙ニ関スル件 大審院検事局日記秘第六二三八号	●昭和12年12月6日
	外諜被疑者検挙計画ニ関スル件 大審院検事局日記秘第六二〇〇号	●昭和12年12月5日
	中央外諜事犯対策協議会設置理由並要綱案	●昭和16年8月26日
	外事関係非常措置ニ関スル件 警保局外発甲第九七号	●昭和16年11月28日 (昭和一六・一二・五大検印)
	防諜ニ関スル非常措置要綱案送付ノ件「通牒」 憲三第一〇〇〇号	●昭和16年11月19日 (昭和一六・一二・五大検印)
	外諜被疑者検挙ニ関スル件 大審院検事局日記秘第六二三八号	●昭和16年12月6日
	外諜被疑者検挙計画ニ関スル件 大審院検事局日記秘六二〇〇号	●昭和16年12月5日
	外諜容疑者一斉検挙ニ関スル件 警保局外発甲第〔空欄〕号	●昭和16年12月6日
	ド・ゴール派ノ活動状況	●昭和16年11月13日
	「バルベ」ニ対スル軍機保護法違反事件証拠品（名簿）写	● —
	外諜関係事件国籍別並各庁別検挙者表（昭和17.1.20現在）	●昭和17年1月20日
	通信省ニ於テ傍受セルA C系X U系暗号無線通信文ノ解説 訳文（二）	●昭和16年11月25日
	大阪通信局傍受暗号解説	●昭和17年2月
	外諜被疑者取調状況調査表	● —
	昭和十六年十二月二十三日附 国際共産党系外諜被疑事件取調状況報告の追加	● —
ゾルゲ事件取調状況	●昭和17年1月12日	
ゾルゲクラウドゼン 使用ノ暗号解説	● —	
ゾルゲ一派外諜事件捜査資料（無電関係）	●昭和16年11月	
第2巻	今次赤色国際諜報団ノ諜報活動ニ関スル技術的注意「リヒアルド・ゾルゲ」ノ供述	●昭和16年12月
	ゾルゲ宅ヨリ発見セルペン書英文情報訳文	● —
	「リヒアルド・ゾルゲ」ノ蒐集セル情報要旨（其一）	●昭和17年1月
	「ゾルゲ」調査書	●11月20日
	クラウドゼン宅英文ノ情報	● —
	クラウドゼン宅ヨリ発見セルペン書英文情報訳文	● —
	マックス・クラウドゼン自宅捜索ノ結果発見シタル報告書訳文 （原文独文）	●昭和16年11月25日
	マックス・クラウドゼン自宅捜索ノ結果発見シタル発信原稿訳文 （原文英語）	● —
	マックス・クラウドゼン手記（訳文）其の一	●昭和17年1月
	「ブランコ・ド・ヴーケリッチ」手記訳文（一）「私の共産主義信奉の経過」／「ブランコ・ド・ヴーケリッチ」手記訳文（二）「ユーゴスラヴィア」に於ける私の共産主義運動の経験	●昭和17年2月
	独逸雑誌「ゲオ・ポリティーク」西暦一九三七年一月号所載「エル・エス」筆「日本ノ農村問題第一」と題する論説訳文	● —
	独逸雑誌「ゲオ・ポリティーク」西暦一九三七年二月号所載「エル・エス」筆「日本ノ農村問題第二」と題する論説訳文	● —
	水野成諜報活動一覧表	● —
	山名正實ノ宮城與徳ニ提報シタル情報内容及其ノ蒐集先調査 （参考）本文ハ宮城與徳ノ所持品タル秋山幸治ノ英訳文ヨリ 訳出セリ本文ノ前半ハ英訳後上部ニ提出セリ	●昭和17年1月 ●昭和16年10月27日
	独ノ開戦ト岐路ニ立ツ国内政治満鉄「時事資料月報」ノ一部 （満鉄首脳部ノミ配布ヲ受ケ居ルモノ）	● —
	宮城與徳ノ下部組織	●昭和16年11月
尾崎秀實ノ下部組織	●昭和16年11月	
篠塚虎雄ノ尾崎秀實・宮城與徳ニ提報シタル軍事資料並情報 内容及其ノ蒐集先調査	●昭和17年1月	
篠崎虎雄ノ犯罪事実	● —	

II ゾルゲ事件史料 2（「尋問調査綴」ほか）

2は多数の「尋問調査綴」に加えて、「上奏文案」「申報」などの総括的な文書も収録。

第2回記本（2019年11月刊行予定）		
第3巻	第二回被疑者訊問調査書 被疑者 尾崎秀實	●[昭和16年10月26日]
	第三回被疑者訊問調査書 被疑者 尾崎秀實	●[昭和16年10月27日]
	第四回被疑者訊問調査書 被疑者 尾崎秀實	●[昭和16年10月28日]
	第五回被疑者訊問調査書 被疑者 尾崎秀實	●[昭和16年10月29日]
	第六回被疑者訊問調査書 被疑者 尾崎秀實	●[昭和16年10月31日]
	尾崎秀實ノ供述要旨	●昭和16年10月17日
	尾崎秀實供述要旨（其ノ三） ——客観情勢ニ対スル認識所見——	●昭和16年12月3日
	尾崎秀實供述要旨（其ノ四） ——支那事変処理問題ニ就テ——	●[昭和16年]12月22、27日
	ゾルゲ事件（川合、水野、西園寺、宮城、田中）	●[昭和17年]
	第二回被疑者訊問調査書 被疑者 川合貞吉	●[昭和16年10月28日]
	第三回被疑者訊問調査書 被疑者 川合貞吉	●[昭和16年11月7日]
	第四回被疑者訊問調査書 被疑者 川合貞吉	●[昭和16年11月9日]
	第五回被疑者訊問調査書 被疑者 川合貞吉	●[昭和16年11月10日]
	第二回被疑者訊問調査書 被疑者 水野茂	●[昭和16年10月27日]
	第4巻	第二回被疑者訊問調査書 被疑者 宮城與徳
第三回被疑者訊問調査書 被疑者 宮城與徳		●[昭和16年10月27日]
訊問調査書 水野茂		●[昭和16年10月17日]
第二回被疑者訊問調査書 被疑者 水野茂		●[昭和16年10月27日]
第三回被疑者訊問調査書 被疑者 水野茂		●[昭和16年12月12日]
第四回被疑者訊問調査書 被疑者 水野茂		●[昭和16年12月16日]
第五回被疑者訊問調査書 被疑者 水野茂		●[昭和16年12月17日]
第六回被疑者訊問調査書 被疑者 水野茂		●[昭和16年12月18日]
第七回被疑者訊問調査書 被疑者 水野茂		●[昭和17年1月13日]
検事訊問調査書（三月十六日附）被疑者 西園寺公一		●[昭和17年]3月16日
検事訊問調査書（三月二十八日附）被疑者 西園寺公一		●[昭和17年]3月28日
検事訊問調査書（三月三十日附）被疑者 西園寺公一		●[昭和17年]3月30日
検事訊問調査書（三月三十一日）被疑者 西園寺公一		●[昭和17年]3月31日
第二回被疑者訊問調査書 被疑者 宮城與徳		●[昭和16年10月26日]
第三回被疑者訊問調査書 被疑者 宮城與徳		●[昭和16年10月27日]
第二回被疑者訊問調査書 被疑者 水野茂	●[昭和16年10月27日]	
訊問調査書 被疑者 田口右源太	●[昭和16年10月29日]	
第二回被疑者訊問調査書 被疑者 田口右源太	●[昭和17年2月5日]	
第三回被疑者訊問調査書 被疑者 田口右源太	●[昭和17年2月7日]	
第四回被疑者訊問調査書 被疑者 田口右源太	●[昭和17年2月9日]	
第五回被疑者訊問調査書 被疑者 田口右源太	●[昭和17年2月12日]	
第六回被疑者訊問調査書 被疑者 田口右源太	●[昭和17年2月14日]	
第七回被疑者訊問調査書 被疑者 田口右源太	●[昭和17年2月16日]	
検事訊問調査書（四月四日）被疑者 犬養健	●[昭和17年]4月4日	
検事訊問調査書（三月十六日附）被疑者 西園寺公一	●[昭和17年]3月16日	
検事訊問調査書（三月二十八日附）被疑者 西園寺公一	●[昭和17年]3月28日	
検事訊問調査書（三月三十日附）被疑者 西園寺公一	●[昭和17年]3月30日	
検事訊問調査書（四月四日）被疑者 犬養健	●[昭和17年]4月4日	
第二回訊問調査書（四月十日）被疑者 犬養健	●[昭和17年]4月10日	
第三回訊問調査書（四月二十一日）被疑者 犬養健	●[昭和17年]4月21日	
第5巻	検事訊問調査書（三月五日）被疑者 尾崎秀實	●[昭和17年]3月5日
	検事訊問調査書（三月七日）被疑者 尾崎秀實	●[昭和17年]3月7日
	検事訊問調査書（三月八日）被疑者 尾崎秀實	●[昭和17年]3月8日
	検事訊問調査書（三月十日）被疑者 尾崎秀實	●[昭和17年]3月10日
	検事訊問調査書（三月十二日）被疑者 尾崎秀實	●[昭和17年]3月12日
	検事訊問調査書（三月二十四日）被疑者 尾崎秀實	●[昭和17年]3月24日
	検事訊問調査書（四月一日）被疑者 尾崎秀實	●[昭和17年]4月1日
	検事訊問調査書（四月十四日附）被疑者 尾崎秀實	●[昭和17年]4月14日

第3回記本（2020年4月刊行予定）		
第6巻	検事訊問調査書（四月四日）被疑者 犬養健	●[昭和17年]4月4日
	海江田久孝供述要旨	●昭和17年6月26日
	18.大森吉五郎関係〔(イ)職業、(ロ)被疑事実〕	● —
	西暦一九三〇年ヨリ一九三二年ニ至ル迄ノ支那ニ於ケル各種 ノ他ノ「グループ」	● —
	西園寺公一等ノ国防保安法違反並軍機保護法違反被疑事件取 調情況ニ関スル件 日記秘第〔空欄〕号	●昭和17年3月23日
	西園寺公一ニ対スル国防保安法違反並軍機保護法違反被告 事件	● —
	未検挙被疑者被疑事実調	●昭和17年6月26日
	ゾルゲ事件取調状況	●昭和17年5月28日
	中西功関係事件概要東京刑事地方裁判所検事局報告	●昭和17年7月1日
	中西功関係事件資料東京刑事地方裁判所検事局報告	●昭和17年7月1日
	中西功関係事件取調状況 昭和十七年七月九日	●昭和17年7月9日
	中西功関係事件取調状況 昭和十七年七月十三日	●昭和17年7月13日
	中西功関係事件取調状況 昭和十七年七月十五日	●昭和17年7月15日
	中西功等関係事件取調状況報告 昭和十七年七月十八日	●昭和17年7月18日
	中共関係事件取調状況 汪錦元 昭和十七年八月三日	●昭和17年8月3日
	中共関係事件取調状況 陳一峯ノ供述要旨 昭和十七年八月三日	●昭和17年8月3日
	中国共産党事件取調状況（陳一峯陳述要旨ノ二） （第二回八月四日）昭和十七年八月六日現在	●昭和17年8月6日
	中共関係事件取調状況 李徳生 昭和十七年八月二日	●昭和17年8月2日
	中共関係者李徳生 取調状況（其ノ二）昭和十七年八月六日 昭和十七年四月二十日付 兵務局長宛軍事上ノ秘密照会ノ一部	●昭和17年8月6日 ●[昭和17年]
	軍事上ノ秘密ニ関スル件照会 昭和十七年六月十一日	●昭和17年6月11日
軍関係経済違反事件ニ関スル件 昭和十七年六月二十二日	●昭和17年6月22日	
満鉄東京支社ノ情報入手関係	●昭和17年6月26日	
訳文	● —	
対米交渉ニ関スル件 昭和十七年二月二十日	●昭和17年2月20日	
勅許執奏方ノ件	●昭和17年4月	
「東京時事資料月報」	● —	
ゾルゲ事件概要（一）（無電関係）	●昭和17年1月	
ゾルゲ事件概要	●昭和17年3月	
第7巻	ゾルゲ事件関係主要被告人公訴事実集	●昭和17年5月
	国際共産党対日諜報機関検挙申報	●昭和17年6月10日
第8巻	所謂国際諜報団事件に関する上奏文案	●昭和17年5月11日
	所謂国際諜報団事件に関する上奏案	●昭和17年5月9日
	国際諜報団事件に関する刑事局長談	●昭和17年5月7日
	国際諜報団事件に関する刑事局長談	●昭和17年5月9日
	国際諜報団事件に関する発表要綱（案）	●昭和17年5月11日
	国際諜報団事件に関する司法当局談	●昭和17年5月11日
	国際諜報団事件に関する司法当局談〔6部アリ〕	●昭和17年5月12日
	国際諜報団事件に関する司法内務両当局談	●[昭和17年5月]
	国際諜報団事件に関する司法省発表〔5部アリ〕	●昭和17年5月12日
	大審院検事局意見ノ外務省非公式意見	●昭和17年5月12、13日
新聞記事掲載要領	●[昭和17年]	



クラウドゼンらが無電通信で使用していたとされる上海のアンテナ設備図と、日本での検挙時に押収された通信機機器。

III ゾルゲ事件周辺史料

IIIではコンミンテルン、中国共産党、また戦後の戦犯追放関連の資料を収録。「ゾルゲ事件」をより広範に捉えるために必見の文書類。

第4回記本（2020年7月刊行予定）		
第9巻	「コミンテルン」ノ青年層獲得政策ニ関スル件 司法省刑事局秘第一五一九号	●昭和13年9月5日
	海外ヨリ密送セラレタル左翼宣伝印刷物調	●昭和13年11月19日
	日本共産党ノ「コミンテルン」ニ宛テタル一九三八年度上半 期報告ノ全訳及其ノ要旨写送付ノ件 司法省刑事局秘第二〇八九号	●昭和13年12月3日
	第四国際極東代表部委員会ノ存在ト蘇連側ノ第四国際運動対 策ニ関スル件 司法省刑事局秘第三〇号	●昭和13年2月27日
	日本国ニ在ル「ソヴィエト」社会主義共和国連邦通商代表部 ノ法的地位ニ関スル我方対案ノ日本国「ソヴィエト」社 会主義共和国連邦間通商協定	● —
	中国共産党東京支部事件概要ノ中国共産党東京支部関係被起 訴者氏名等一覧表	●昭和15年11月20日
	三、一五・四、一六事件当時ニ於ケルコミンテルン我国共 産党トノ連絡概況	●昭和16年2月21日
	三、一五・四、一六事件当時ニ於ケルコミンテルン我国共 産党トノ連絡概況	●昭和16年2月13日
	対蘇国交調整問題ト国内共産主義運動取締対策	●昭和15年2月14日
	中国人汪叔子等ニ対スル治安維持法並軍機保護法違反事件ノ 無国籍土人エリメイ外七名ニ対スル軍機保護法違反事件	● —
	〔左翼研究会系統図〕	● —
	質疑事項ノ参考事項	● —
	日本共産主義者団関係検挙調	●9月13日午前10時現在
	日本共産主義者団第二次検挙予定表	● —
	日本共産主義団ノ定義	● —
	左翼運動情勢報告	● —
	昭和十五年六月二十四日以降検挙ノ「党」再建運動概況 追加報告	● —
日本国内に於ける共産運動の将来性	● —	
「コミンテルン」ト治安維持法トノ関係ノ「コミンテルン」ノ 目的遂行罪ニ関スル起訴状ノ雛型並若干ノ資料及注意（東 京控訴院検事局思想部稿）	● —	
今春チタ市ニ於ケルコミンテルン極東会議ノ件 日記思第二八七号	●昭和15年3月22日	
第七時コミンテルン極東大会ニ於テ指示サレタ日本ニ対スル テーゼ情野義秀手記	●昭和16年10月20日	
共産主義運動ノ近状（昭和十六年十月）	●昭和16年10月	
第五回訊問調査抜粹 被疑者 和田博雄	● —	
「五条」実行協議和田博雄公訴事実 （昭和十六年十二月三十一日求予審）	● —	
在満日系共産主義運動ニ関スル件（第二報）	●昭和16年11月6日	
名古屋旧朝基関係者ノ治維法違反被疑事件	● —	
量刑ト再犯ニ関スル資料	● —	
満洲ニ於ケル共産運動ノ概況	●昭和16年4月5日	
〔在留外地人ノ民族独立運動ニ関スル通牒〕	●昭和17年4月10日	
第10巻	〔部内学習会資料、プログラム〕	●昭和17年3月
	一斉検挙ニ伴フ新聞記事掲載及無線電話放送差止ニ関スル件	●昭和17年6月18日
	思想研究資料特輯第九十二号 昭和十七年八月	●昭和17年8月
	〔共産主義取締り方針案につき意見〕	● —
	「在華日本人民反戦同盟」ノ活動ニ就テ	● —
	〔中国共産党の戦略と問題点断片〕	● —
	中国共産党組織系統表	●昭和9年12月15日
	在満中国共産党隷下諸機関系統表	●昭和10年6月
	在満中国共産党及共産軍分布図	●昭和10年6月
	一、秘密結社「読書会」ノ二、秘密結社「鉄血同盟」ノ三、重 慶派中国国民党ノ四、在新京大学学生運動ノ外 資料十七	● —
今次事件ノ取調ニツイテ	●4月27日	
検挙前ヨリ現在迄ニ至ル取調ヘニ対スル心境ノ推移	● —	
〔満鉄調査部事件関係者手記〕	●[昭和17～18年]	

司法におけるゾルゲ事件を全体として把握するために、

これらの史料を避けて通ることはできないだろう

● 本集成の特色 ●

1. 「ゾルゲ事件」に関する、はじめての第一次史料公開！
二〇一七年に国会図書館憲政資料室ではじめて公開された「太田耐造関係文書」から、「ゾルゲ事件」に関係する史料を厳選。基礎資料とされてきた『現代史資料「ゾルゲ事件」全四巻（みすず書房）』の原史料、さらにそれ以上の未収録文書を多数収録。
2. 「ゾルゲ事件」に焦点を絞り、その周辺史料も収録！
本集成は、I「ゾルゲ事件史料1」（第1・2巻）、II「ゾルゲ事件史料2」（第3・8巻）、III「ゾルゲ事件周辺史料」（第9・10巻）より構成。I、IIには、「ゾルゲ」と記してまとめられた包紙・封筒の文書を中心に「外課事件」綴や訊問調書を収録。IIIには、直接・間接に事件と関わる史料群を収録し、太田文書のゾルゲ事件に関する重要史料約180点を精選。
3. 史料の位置づけを俯瞰する充実の編者解説を附す
これまでのゾルゲ事件研究における太田耐造関係文書の位置づけ、その意義と可能性を論ずる編者・加藤哲郎による解説を附す。本解説によって、『現代史資料』との異同対照も可能に。

今日に到る迄の私は殆どかえり見もせず驀地に一筋の道を駆け来ったようなものでありました

——「検事訊問調書（4月14日附）被疑者 尾崎秀實」より



尾崎秀實（1901-1944）

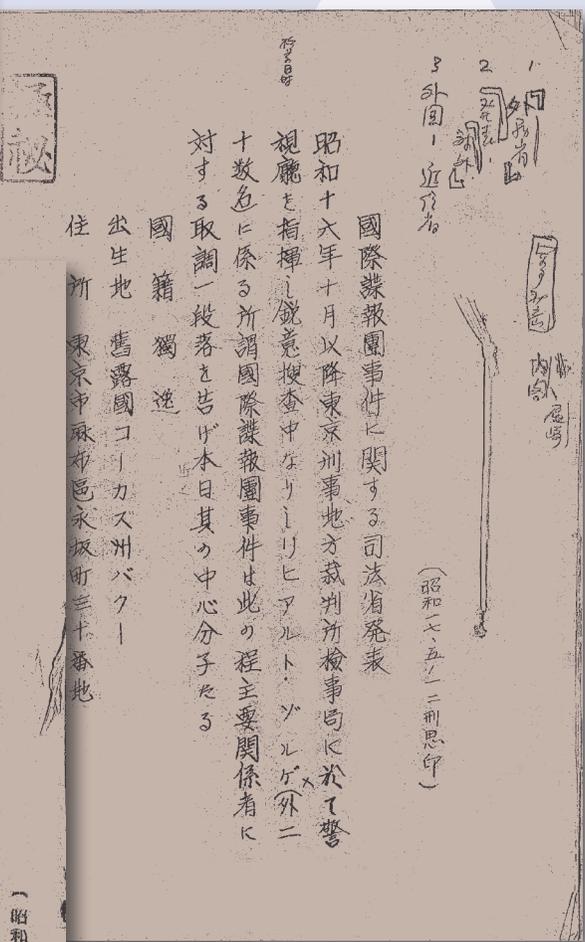
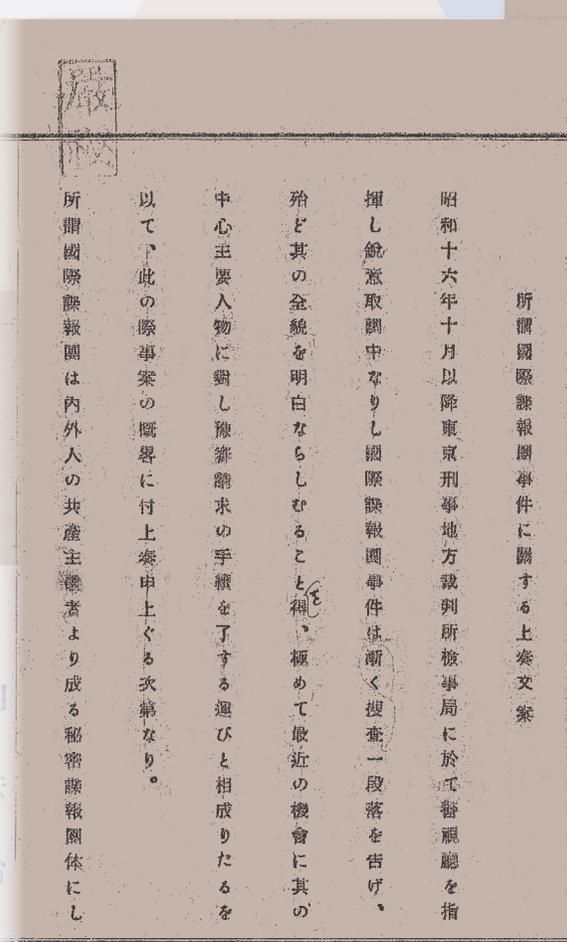
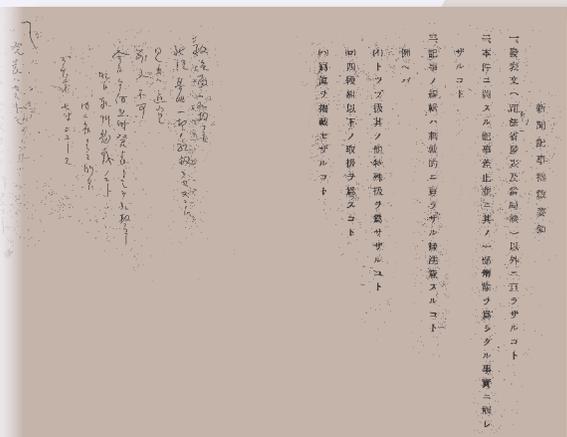


宮城與徳（1903-1943）

第10巻	司法部職員及特高警察勤務経験ヲ有スル者中聯合国総司令部発日本政府宛一月四日附覚書「公務従事ニ適セザル者ノ公職ヨリノ除去ニ関スル件」附属書A号G項ニ該当スル者ニ関スル件（昭和二一、四、五閣議決定）	●〔昭和21年〕
	G項該当者調査抜粋	●〔昭和21年〕
	G項該当者審査下調の要領	●昭和21年4月23日
	昭和二十一年一月四日附連合軍総司令部発日本政府宛覚書（公務従事ニ適セザル者ノ公職ヨリノ除去ニ関スル件）附属書B号調査表ノ作成ニ関スル件通牒 司法省人庶第二五八号	●昭和21年4月18日

※配列は原則として「太田耐造関係文書」請求番号順に、I～IIIの内容構成に従って一部変更した。
※〔 〕は編集部にて補った。また ——— は年月日不詳のものである。

◀左はプレスリリースに用意された「新聞記事掲載要領」。トップ扱いにするな、4段組以下にせよ、写真掲載は不可等と厳しい規制を課している。



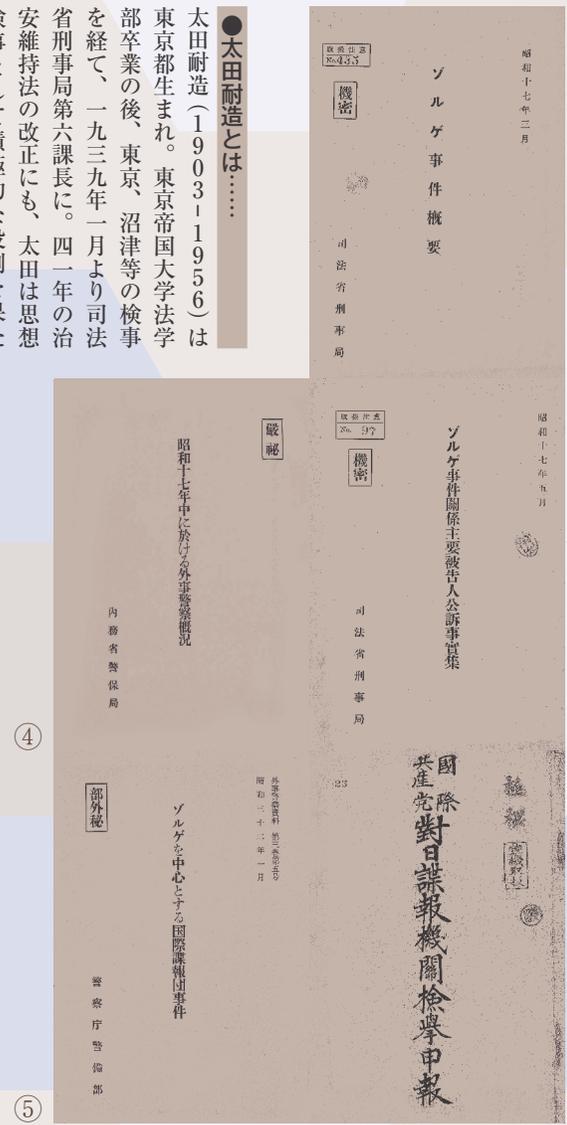
◀特筆すべき新史料「所謂国際諜報団事件に関する上奏文案」。昭和17年5月13日午前11時30分、昭和天皇は尾崎及びゾルゲらの機密漏洩事件の奏上を受けた。同16日、司法省は国際諜報団事件としてゾルゲ事件を発表する。右は書き込みが多数ある「国際諜報団事件に関する司法省発表」。

● 太田耐造とは……

太田耐造（1903-1956）は東京都生まれ。東京帝国大学法学部卒業の後、東京、沼津等の検事を経て、一九三九年一月より司法省刑事局第六課長に。四一年の治安維持法の改正にも、太田は思想検事として積極的な役割を果たし、国家主義的な当時の司法行政において、原理的背景としての「日本法理」の確立をめざした。太田がゾルゲ事件に関与した時期は、同課長就任から四二年、満洲国司法部刑事司法室に転属するまでの数年間のみである。敗戦後、公職追放となり弁護士となるが、五六年三月には心臓発作で急逝、五三歳だった。精力的に仕事に取り組み行動力に富んだ人物だったという。

「ゾルゲを中心とする国際諜報団事件」とは……

本集成には、検察によるゾルゲ事件の総括ともいえる「国際共産党対日諜報機関検挙申報」（一九四二年六月、③）を、その前身である「ゾルゲ事件概要」（同年三月、①）、「ゾルゲ事件関係主要被告人控訴事実集」（同年五月、②）と併せて収録。これらは天皇への上奏とプレスリリース（同年五月）をひとつの到達点とし、「ゾルゲ事件」の概要をまとめた史料群である。本史料は同年の内務省警保局編「昭和十七年中に於ける外事警察概況」（④）中に「ゾルゲを中心とする国際諜報団事件」として掲載され、さらに戦後は「ゾルゲを中心とする国際諜報団事件」外事警察資料第三巻第五号（⑤）として部外秘で配布された。「現代史資料」第一巻冒頭にも収録された、現在の「ゾルゲ事件」を形づくる重要資料である。



ゾルゲ事件史料集成

【編集復刻版】 ● 太田耐造関係文書 ●

全4回配本・全10巻

編集・解説 ● 加藤哲郎 (一橋大学名誉教授)

史料協力 ― 国立国会図書館

推薦 ― 伊藤隆 (東京大学名誉教授)

荻野富士夫 (小樽商科大学名誉教授)

挿本価 ― 挿本 250、000円 + 税

体裁 ― B5判・上製・総約3、600頁 (各巻約360頁)

お薦め先 ― 近現代史、インテリジェンス、法制史、国際関係、

メディア史等の研究者。大学・専門図書館。

● 配本

第1回配本	全2巻	挿本 50、000円 + 税	2019年7月刊行予定
第2回配本	全3巻	挿本 75、000円 + 税	2019年11月刊行予定
第3回配本	全3巻	挿本 75、000円 + 税	2020年4月刊行予定
第4回配本	全2巻	挿本 50、000円 + 税	2020年7月刊行予定



▲中央にゾルゲ顔写真を配した口絵からも、すでに「ゾルゲを中心とした」事件としての方向性がうかがえる (『国際共産党対日諜報機関検挙申請』、第7巻収録)。

好評の既刊資料

外事警察概況 全8巻

残部僅少

「ゾルゲを中心とする国際諜報団事件」を掲載した「昭和十七年中に於ける外事警察概況」(第8巻収録)をはじめ、戦前期の対外情報活動を伝える第一級資料。内務省警保局が行った課報活動は、対ソ・対中を中心に「外事警察報」に掲載、年度毎にこの「概況」に集約された。近現代史研究において見逃すことのできない基礎資料。

- 解題……石堂清倫
- 底本……昭和10、17年中に於ける外事警察概況 (内務省警保局編、1935-1942年)
- 体裁……A5判・上製・総4、220頁
- 挿本価……本体95、000円 + 税

ISBN978-4-8350-0849-3

特高警察関係資料集成第1期

残部僅少

全30巻・別冊1

膨大に存在する特高警察資料から、現在の視点から見て重要な資料を精選、復刻。第1期には米騒動、大正期の社会運動、3・15事件等の資料群を収録。「共産主義運動」「無産政党運動」「労働運動」はじめ、「出版警察関係」「特高関係書類」など12のテーマに分けて収録した浩瀚な必備資料。

- 編・解説……荻野富士夫 (各巻巻頭に収録)
- 体裁……A4判・四面付・上製
- 挿本価……本体775、000円 + 税
- 推薦……今井清一・奥平康弘・松尾尊彦・由井正臣・渡部徹
- 構成……全30巻・全11回配本

総約14、300頁

※各配本 本体75、000円 + 税

※収録内容、刊行時期等は変更となる場合がございます。

- 第1回配本 「共産主義運動」 全3巻 ISBN978-4-8350-0870-7
- 第2回配本 「共産主義運動」 全3巻 ISBN978-4-8350-0874-5
- 第3回配本 「無産政党運動／労働運動」 全3巻 ISBN978-4-8350-0878-3
- 第4回配本 「農民運動／水平運動・在日朝鮮人運動」 全3巻 ISBN978-4-8350-0882-0
- 第5回配本 「国家主義運動／外事警察関係」 全3巻 ISBN978-4-8350-0886-8
- 第6回配本 「外事警察関係／出版警察関係」 全3巻 ISBN978-4-8350-0890-5
- 第7回配本 「特高関係重要資料」 全3巻 ISBN978-4-8350-0894-3
- 第8回配本 「特高関係例規類」 全3巻 ISBN978-4-8350-0898-1
- 第9回配本 「特高関係各種会議」 全3巻 ISBN978-4-8350-0902-5
- 第10回配本 「特高関係逐次刊行物」 全3巻 ISBN978-4-8350-0906-3
- 第11回配本 「特高警察関係資料解説」 全1巻 ISBN978-4-8350-0910-0

表示価格はすべて税別

不二出版

〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
TEL 03-5981-6704
FAX 03-5981-6705
振替 001600294084